

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成22年9月16日 (2010.9.16)

【公開番号】特開2009-38522(P2009-38522A)

【公開日】平成21年2月19日 (2009.2.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-007

【出願番号】特願2007-199901(P2007-199901)

【国際特許分類】

H 0 4 N 1/409 (2006.01)

H 0 4 N 1/405 (2006.01)

H 0 4 N 1/52 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 1/40 1 0 1 D

H 0 4 N 1/40 C

H 0 4 N 1/46 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月30日 (2010.7.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像を形成する画像形成部を色成分毎に備え、各色成分の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置であって、

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についてのずれ量に応じてディザマトリクス要素の位置をずらし、処理対象のドット画像データに対してスクリーン処理を施すスクリーン処理手段と

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についての前記ずれ量を相殺するように、前記スクリーン処理手段により処理されたドット画像データの各画素の位置を副走査方向にずらし、該ずらしにより生じる画像の段差を平滑化するレジストレーションずれ補正手段と

を備えることを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

前記スクリーン処理手段は、スクリーン処理を行う前に、前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についての前記ずれ量に応じて元のディザマトリクスの要素の位置をずらした新たなディザマトリクスを生成する生成手段と、

前記新たなディザマトリクスを用いてスクリーン処理を実行する手段とを有することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】

画像を形成する画像形成部を色成分毎に備え、各色成分の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置における画像補正方法であって、

前記画像形成装置のスクリーン処理手段が、前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についてのずれ量に応じてディザマトリクス要素の位置をずらし、処理対象のドット画像データに対してスクリーン処理を施すスクリーン処理工程と

前記画像形成装置のレジストレーションずれ補正手段が、前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についての前記ずれ量を相殺するように、前記スクリーン処

理工程により処理されたドット画像データの各画素の位置を副走査方向にずらし、該ずらしにより生じる画像の段差を平滑化するレジストレーションずれ補正工程とを有することを特徴とする画像補正方法。

【請求項 4】

画像を形成する画像形成部を色成分毎に備え、各色成分の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置を、

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についてのずれ量に応じてディザマトリクス要素の位置をずらし、処理対象のドット画像データに対してスクリーン処理を施すスクリーン処理手段と

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についての前記ずれ量を相殺するように、前記スクリーン処理手段により処理されたドット画像データの各画素の位置を副走査方向にずらし、該ずらしにより生じる画像の段差を平滑化するレジストレーションずれ補正手段と

して機能させるためのプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

上記目的を達成するために本発明は以下の構成を備える。すなわち、画像を形成する画像形成部を色成分毎に備え、各色成分の画像を重ね合わせてカラー画像を形成する画像形成装置であって、

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についてのずれ量に応じてディザマトリクス要素の位置をずらし、処理対象のドット画像データに対してスクリーン処理を施すスクリーン処理手段と

前記画像形成部における像担持体上の走査線の副走査方向についての前記ずれ量を相殺するように、前記スクリーン処理手段により処理されたドット画像データの各画素の位置を副走査方向にずらし、該ずらしにより生じる画像の段差を平滑化するレジストレーションずれ補正手段とを備える。